

氏名	正木紀代子
学位の種類	修士(看護学)
学位記番号	修士第99号
学位授与年月日	平成20年3月25日
学位論文題目	医療施設における助産師活動の自律性

論文内容要旨

※整理番号	103	(ふりがな) 氏 名	まさき きよこ 正木 紀代子
修士論文題目	医療施設における助産師活動の自律性		
<p>【研究の目的】 本研究の目的は、①医療施設における助産師活動の自律性（以下、自律性とする）を構成する要因を明らかにすること、②自律性を評価する尺度（以下、自律性尺度とする）の開発を行い、尺度項目の精選と信頼性・妥当性を検討すること、③自律性尺度の3下位尺度の属性および集団特性との関連や得点比較を行い、助産師自律性の特徴を明らかにすることである。</p> <p>【研究の方法】 まず基礎研究において、助産師 15 名を対象に、医療施設において助産師が医師と協働しながら自律して活動している場面、していない場면을質問紙にて調査し、KJ 法を参考に分析した。次に本研究では、基礎研究の結果を参考に自律性の仮尺度を作成し、256 名の助産師を対象に自律性尺度、看護婦の自律性測定尺度（菊池・原田，1997）、Pankratz Nursing Questionnaire（Pankratz，1974；香春，1984）（以下、PNQ とする）を内容とした横断的方法による質問紙調査を実施した。</p> <p>【研究の結果】 基礎研究の質的分析から得られた医療施設における助産師活動の自律性を構成する要因は、「基本的助産実践力」、「医師とのパートナーシップ」、「医師からの信頼」であったが、本研究での因子分析による構成概念妥当性の検討の結果、最終的に抽出された因子は、「基本的助産実践力」、「医師との協働」、「主体的分娩の実践力」であった。 自律性尺度は、助産師の専門的知識に基づいた助産診断と助産技術の実践能力を評価する「基本的助産実践力」7 項目、助産師が助産師活動を行う場面において機能させている医師とのパートナーシップや信頼関係といった協働の程度を評価する「医師との協働」8 項目、対象の主体的分娩に向けた助産師の実践能力を評価する「主体的分娩の実践力」4 項目となった。 自律性尺度の3つの下位尺度は、内的整合性および反復再現性による信頼性が確認された。また看護婦の自律性測定尺度およびPNQとの仮説を支持する有意な相関から、併存妥当性が確認された。 専門職としての経験を積んでいる方が基本的な助産実践能力や医師との協働が高いが、主体的な分娩に対しての実践力に関しては、専門職としての経験ではなく、産婦の主体的な分娩に対する助産師自身の取り組み姿勢や、施設のそれらを理解する環境に大きく左右されるということが示唆された。</p> <p>【考察】 医療施設における助産師の自律した活動の土台となるものは、「基本的助産実践力」である。次に専門的知識に基づいた基本的な実践能力を行使することにより「医師との協働」が効果的に機能する。一方、対象の出産にかかわる多様なニーズに対応し、主体的な出産を支援するための高度な技術を展開するためには、「基本的助産実践力」のみならず「主体的分娩の実践力」が求められ、主体的分娩への自律した積極的取り組みにより、「医師との協働」が高まる。さらに、医師とのパートナーシップや信頼が効果的に機能することにより、助産師は「基本的助産実践力」を発揮し、より対象のニーズに対応するための「主体的分娩の実践力」を高めることが出来る。これらの3変数の相互作用によって、助産師の自律性は高まり、助産師力の増大につながると考える。</p> <p>【総括】 助産師力の強化が求められる中、助産師自律性はどのような要因によって構成されているのかを明確にし、助産師としての専門性と自律を発揮するための示唆を得ることができた。今後は、自律性を評価できる尺度を用い、さらに助産師の自律性を評価し、基本的助産実践力、医師との協働、主体的分娩の実践力や機能を高める実際的方法を見出して周産期活動に貢献していきたい。</p>			

- (備考) 1. 研究の目的・方法・結果・考察・総括の順に記載すること。(1200字程度)
2. ※印の欄には記入しないこと。